

官民合同会議(2009年10月19日、於ブラジリア)

リオデジャネイロ日本商工会議所からの報告(会頭:井上惣太郎)

I. 過去1年の環境の変化

(1) 全般

景気回復のサイン。失業率の低下(リオ`08/10 7% => `09/8 5.6%)
IMF 予測の GDP (`09 0.7%, `10 +3.5%)、自動車販売好調を維持

(2) Petrobras

本年1月に新たに5ヶ年計画を発表。`09年から`13年までに US\$174.4 bil.
(=> 従来は`08~`12 US\$112.4 bil)。新石油法(未着手の Pre Salt 並びに重要
戦略油田の開発に関し)では、PB が全ての鉱区開発に Min 30%関与するという
もの(但し、正式な法制化には時間が掛かる見込み)

(3) Vale

鉄鉱石生産量も回復しつつある。(1~6月で 50%減=> `09 240mil トン
<=`07 296 mil トン、`08 293 mil トン)。

複数の製鉄 Project (CSA, CSP, CSU, ALPA) を推進。

(4) 一般産業・日本企業

千代田化工(09年7月)、豊田通商(09年7月)が新規に事務所を開設。

II. ビジネス展望

(1) 足元の動き

Petrobras 関連: Premium Refinery (Premium 1 は`13稼働, Premium 2 `14稼働)。

FPSO (Pre-salt 生産用)、Semi sub/Drill Ship、Supply Boat など多数新造。

Vale 関連: 40万トン級の鉄鉱石運搬船の新造(国内造船所への発注も視野)。

造船業界: (リオ州) Maua, Eisa 他、大小合わせ十銃数社(17社)。国内発注への
シフトを期待。

(2) その他新規分野

ワールドカップ、オリンピックを睨んだインフラ整備。市、港湾区域の再開発。

III. 課題

(1) 中国企業の進出: 中国国家開発銀行の PB への US\$ 10 Bil の融資、
武漢製鉄の MMX との JV

韓国企業の進出: リオ州ではないが、石油絡みで造船業界へ進出

(2) 治安全般の問題 (昨年よりも悪化)